

【使徒の働き 25 章】

「～そのイエスが生きているとパウロは主張しているのです。」 (25 : 19)

パウロは2年間監禁されたままで放っておかれ、その間総督はペリクスからフェストに変わりました。この章はカイザリアにつながれていたパウロの裁判の箇所です。パウロは身の潔白を主張しますが、フェストはユダヤ人の歓心を買おうとして、エルサレムで裁判を受ける気はないかと尋ねます。正しい判断を下すどころか、ローマ政府のご機嫌取りをし、ユダヤ人に気に入られようとする、そのような不当な裁判でパウロの命を左右する力を持っていたというのは、なんとも恐ろしいことに思えます。しかしそれを通して、神のご計画は着実に進められています。

パウロは、エルサレムではなく、カイザルの法廷に立っているのだからここで裁判を受けるのが当然であると主張し、その結果フェストは、「カイザルに上訴したのだからカイザルのもとへ行きなさい。」と言います。すなわち、フェストの言葉を通して、「ローマも見なければならぬ。」というパウロに与えられた神様から与えられた幻は実現するようにどんどん進められているのです。いつもどんな状況においても、**真の支配者であられる神様のみ手を見ていくものとなりましょう。**

19 節には、「～そのイエスが生きているとパウロは主張しているのです。」と書かれ、フェストは彼が死に当る罪がないことを知っています。

私達も**イエス様が生きて働いておられる**ことを、パトモス派遣の中で、白馬キャンプで沢山体験しました。

パトモス派遣では「神の御言葉」がポイントで語られ、黙示録(7 : 9 など)が開かれて、日本のリバイバルと本格的な宣教が始まることが語られてきました。白馬キャンプでも「祈り」にポイントがあり、日本救霊の為に祈って下さっている韓国のトーカムサ教会の方々が応援に来て下さり、感動的なメッセージと賛美を送って下さいました。試練にあってもなお感謝し祈り信仰の対応をする時、神様が思いがけない開放を与えてくださるという証はたくさんあります。

今回も、ザンビアの宣教師がお産の為に帰国中の時に 3.11 の被災者となり、その中で沸々とわいてくる内なる力で周りの人を励まし慰めた証、精神の病を受け何もできない状態に陥った時、天から賛美が降ってくるその賛美が、賞に選ばれたり、、、多くの具体的な証がありました。

 TLCCC FRH

(天に登録されている長子たちの教会)

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師：イエス・キリスト 牧師：ダニエル大重

SHILOAM

【遣わされた者】

2011.8.7 No.643

今年のみ言葉 歴代士Ⅱ 20 : 14~22、特に 15 節

「あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。

気落ちしてはならない。**この戦いはあなた方の戦いではなく、神の戦いであるから。」**



白馬キャンプに参加されたトーカムサ教会の人々

皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。

主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center